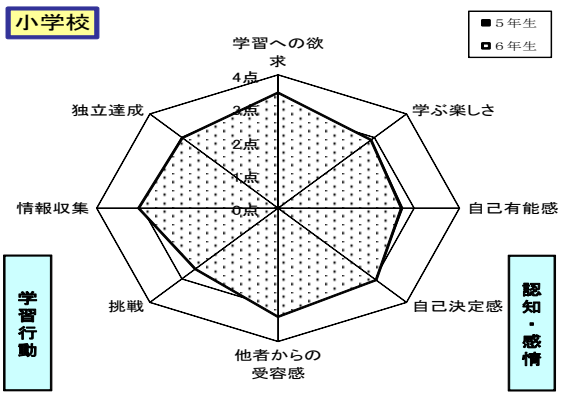
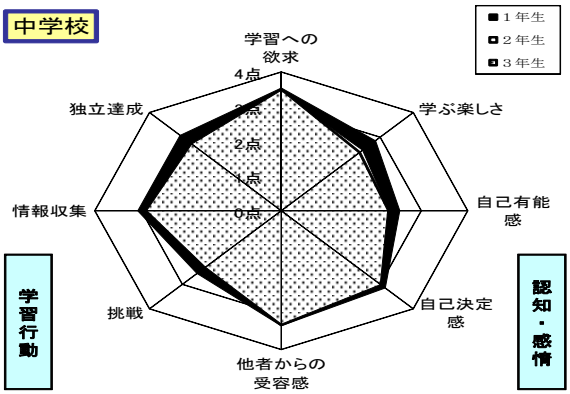
平成24年度　下野市学習意欲調査　分析結果

Ⅰ　平成２４年度　学習意欲調査の結果

１　市全体の状況

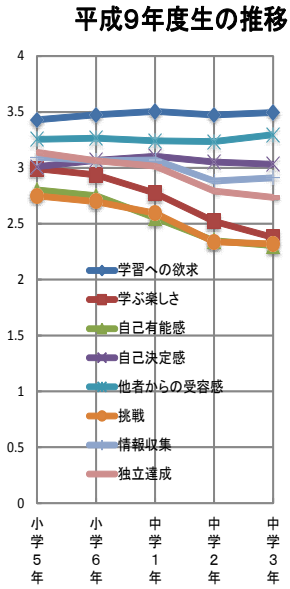


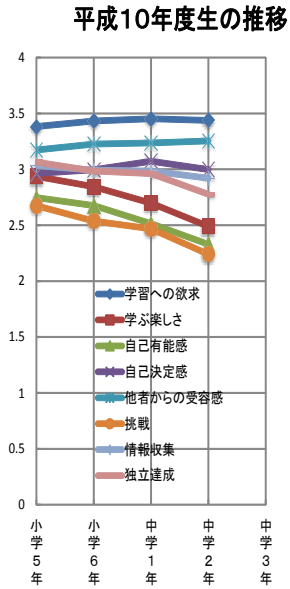


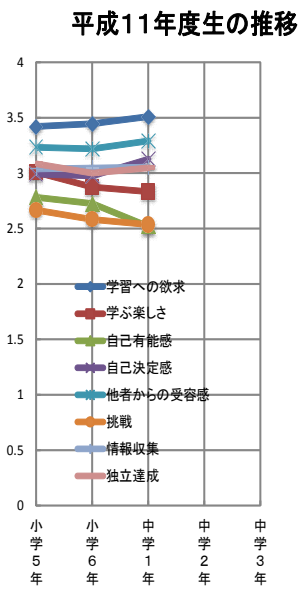
(1)　各要素の平均点

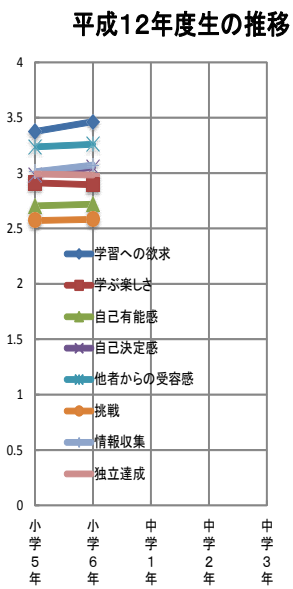
			「学習の基盤」		「認知・感情面」			「学習行動」		
	児童・生徒数	欠席者数	学習への欲求	他者からの受容感	学ぶ楽しさ	自己有能感	自己決定感	挑戦	情報収集	独立達成
小５	６４２	４	３．３７	３．１７	２．８８	２．７３	３．００	２．５３	３．０２	２．９９
小６	６０８	４	３．４６	３．２６	２．８９	２．７２	３．０５	２．５８	３．０７	２．９８
平均	１２５０	８	３．４２	３．２１	２．８８	２．７２	３．０３	２．５６	３．０５	２．９８
中１	６３５	１７	３．５１	３．２９	２．８３	２．５２	３．１３	２．５４	３．０５	３．０５
中２	６４５	９４	３．４４	３．２５	２．４９	２．３３	３．００	２．２４	２．９２	２．７８
中３	５９３	６２	３．４９	３．３０	２．３８	２．３０	３．０３	２．３２	２．９１	２．７４
平均	１８７３	１７３	３．４８	３．２８	２．５８	２．３９	３．０６	２．３７	２．９７	２．８６

(2)　入学年別平均点の推移









①　中学３年生（平成９年度生）②　中学２年生（平成１０年度生）　③　中学１年生（平成１１年度生）④　小学６年生（平成１２年度生）

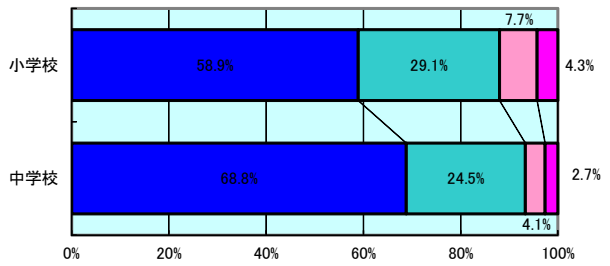
中学３年生（平成９年度生）								
	学習への欲求	他者から受容感	学ぶ楽しさ	自己有能感	自己決定感	挑戦	情報収集	独立達成
小５	3.43	3.26	2.99	2.80	3.01	2.75	3.10	3.14
小６	3.48	3.27	2.94	2.75	3.07	2.70	3.06	3.06
中１	3.50	3.24	2.77	2.55	3.10	2.59	3.07	3.02
中２	3.47	3.24	2.52	2.35	3.05	2.34	2.88	2.79
中３	3.49	3.30	2.38	2.30	3.03	2.32	2.91	2.74

中学２年生（平成１０年度生）								
	学習への欲求	他者から受容感	学ぶ楽しさ	自己有能感	自己決定感	挑戦	情報収集	独立達成
小５	3.38	3.17	2.94	2.75	2.96	2.67	3.03	3.06
小６	3.43	3.23	2.85	2.68	3.00	2.54	2.99	2.99
中１	3.45	3.24	2.70	2.51	3.07	2.47	2.99	2.96
中２	3.44	3.25	2.49	2.33	3.00	2.24	2.92	2.78

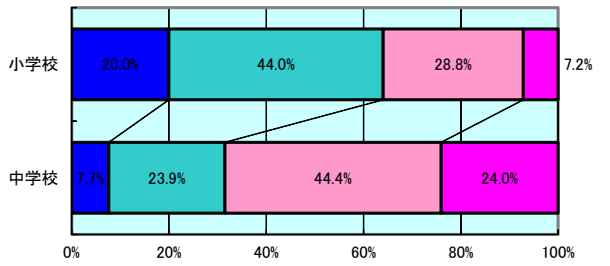
中学１年生（平成１１年度生）								
	学習への欲求	他者から受容感	学ぶ楽しさ	自己有能感	自己決定感	挑戦	情報収集	独立達成
小５	3.42	3.23	3.01	2.78	2.99	2.67	3.04	3.08
小６	3.45	3.22	2.87	2.73	2.97	2.58	3.05	3.00
中１	3.51	3.29	2.83	2.52	3.13	2.54	3.05	3.05

小学６年生（平成１２年度生）								
	学習への欲求	他者から受容感	学ぶ楽しさ	自己有能感	自己決定感	挑戦	情報収集	独立達成
小５	3.37	3.24	2.91	2.70	2.98	2.57	3.01	2.99
小６	3.46	3.26	2.89	2.72	3.05	2.58	3.07	2.98

「テストでは，自分の力を出し切れなくてもよいと思いますか。」



「テストでは，よい成績をおさめていると思いますか。」



(3)　１(1)(2)の考察

①　学習行動における「挑戦」「自己有能感」に若干の落ち込みが見られるものの，良好な結果である。

②　小学校では，各項目，学年間で大きな差は見られない。

③　平成１２年生まれ（現小６）では，全８要素のうち，６つの要素で昨年度の数値を上回っている。残る２要素についても，昨年とほぼ同様であるため，現小６生の市全体の傾向として，自ら学ぶ意欲が高まっていると考えられる。

④　「入学年別平均点の推移」を見ると，どの年度生まれも中学１年生で「学ぶ楽しさ・自己有能感」が低下しており，その後も低下している。加えて中学２年では，「挑戦・独立達成」が低下している。認知感情面と学習行動が相関していると思われる。

⑤　中学校で認知感情面と学習行動が相関して低下していることは，調査開始以来の傾向である。「学ぶ楽しさ・自己有能感」「挑戦・独立達成」を低下させない取組を具体的に進めたい。

ア）「学習への欲求」では，「自分の好きなことに時間を忘れて熱中していることがある」と質問しているが，このポイントが中学生になって向上している。部活動に一生懸命取り組んでいる生徒が多いからだと思われる。部活動の指導の充実が自己有能感や挑戦する態度を高める可能性があるのではないか。

イ）「自己有能感」の質問である「テストでは自分の力を出し切れなくてもよいと思いますか」と「自己決定感」の「授業が始まる前に教科書やノートを机の上に出すなど，学習の準備をしている」のポイントも中学生になって向上している。これは，授業に対する意識の高まりからと思われる。受験への意識の現れともとれるが，良いことである。

「自己有能感」の質問では，「テストではよい成績をおさめていると思いますか」で小中間の低下が大きい。しかし，ある程度の低下はやむを得ないことである。自己有能感に関する他の質問はそれほど低下していない。

ウ）「他者からの受容感」の質問「グループ学習の時自分の話を聞いてもらえる」のポイントが向上している。小学生の時は自分の意見を言いたいという思いが強いが，中学生になり，お互いを尊重する態度が育っていると思われる。このことは，授業中の生徒の学習態度に大きく影響すると思われる。良いクラスをつくることが学習意欲を高めることにつながる。

２　学習意欲と生活習慣との関連

（1）　全市小学生の結果

生活の実態についての質問	学習意欲の項目	学習への欲求	学ぶ楽しさ	自己有能感	自己決定感	他者からの受容感	挑戦	情報収集	独立達成	平均値	平均値の差
朝食は毎日食べていますか。	はい	3.42	2.90	2.74	3.04	3.22	2.56	3.06	3.00	3.04	0.28
	いいえ	3.28	2.47	2.33	2.61	3.07	2.30	2.76	2.68	2.76	
	差	0.14	0.43	0.41	0.43	0.15	0.26	0.30	0.32	0.28	
勉強以外でむだに夜ふかしをしていませんか。（テレビやマンガ，ゲーム等）	はい	3.46	2.99	2.79	3.13	3.27	2.64	3.15	3.09	3.11	0.20
	いいえ	3.36	2.73	2.62	2.88	3.13	2.43	2.90	2.84	2.91	
朝は自分一人で起きられますか。	はい	3.45	3.02	2.80	3.11	3.25	2.66	3.13	3.07	3.10	0.17
	いいえ	3.37	2.70	2.62	2.91	3.16	2.41	2.93	2.86	2.93	
自分の部屋は，自分で整理整とんしていますか。	はい	3.47	3.00	2.79	3.15	3.27	2.64	3.16	3.08	3.12	0.28
	いいえ	3.30	2.63	2.58	2.75	3.09	2.38	2.80	2.77	2.84	
	差	0.17	0.37	0.21	0.40	0.18	0.26	0.36	0.31	0.28	
家族のために何か手伝いをしていますか。	はい	3.46	2.96	2.78	3.08	3.25	2.61	3.11	3.04	3.08	0.39
	いいえ	3.17	2.39	2.38	2.67	2.96	2.22	2.65	2.63	2.69	
	差	0.29	0.57	0.40	0.41	0.29	0.39	0.46	0.41	0.39	
家族とはよく話をしていますか。	はい	3.44	2.92	2.75	3.05	3.25	2.58	3.06	3.01	3.05	0.33
	いいえ	3.20	2.46	2.41	2.77	2.73	2.24	2.79	2.68	2.72	
	差	0.24	0.46	0.34	0.28	0.52	0.34	0.27	0.33	0.33	
勉強以外のことで，自信を持ってやれることがありますか。	はい	3.45	2.94	2.78	3.06	3.25	2.61	3.08	3.03	3.07	0.38
	いいえ	3.17	2.46	2.25	2.79	2.90	2.14	2.74	2.63	2.69	
	差	0.28	0.48	0.53	0.27	0.35	0.47	0.34	0.40	0.38	
家庭学習は，毎日だいたい決まった時間していますか。	はい	3.49	3.05	2.84	3.21	3.31	2.68	3.18	3.10	3.15	0.28
	いいえ	3.32	2.66	2.57	2.78	3.09	2.38	2.86	2.83	2.87	
	差	0.17	0.39	0.27	0.43	0.22	0.30	0.32	0.27	0.28	
学習塾に行ったり，家庭教師により勉強したりしていますか。	はい	3.45	2.93	2.77	3.05	3.22	2.67	3.09	3.04	3.08	0.09
	いいえ	3.39	2.85	2.68	3.00	3.21	2.46	3.01	2.94	2.99	
進路について目標がありますか。	はい	3.43	2.90	2.74	3.03	3.22	2.57	3.05	2.99	3.04	0.28
	いいえ	3.17	2.53	2.28	2.87	3.04	2.22	2.81	2.75	2.76	
	差	0.26	0.37	0.46	0.16	0.18	0.35	0.24	0.24	0.28	
学習について何か悩みはありますか。	はい	3.40	2.64	2.56	2.92	3.15	2.30	2.93	2.79	2.90	0.17
	いいえ	3.42	2.96	2.77	3.06	3.24	2.63	3.08	3.04	3.07	

※　学習意欲の平均値の差が大きい質問については，「はい」と解答した児童と「いいえ」と解答した児童の項目毎の「差」を「はい・いいえ」のらんの下に設けた。（全市中学生の表も同様。）

(2)　全市中学生の結果

生活の実態についての質問	学習意欲の項目	学習への欲求	学ぶ楽しさ	自己有能感	自己決定感	他者からの受容感	挑戦	情報収集	独立達成	平均値	平均値の差
朝食は毎日食べていますか。	はい	3.49	2.60	2.41	3.07	3.29	2.38	2.98	2.88	2.95	0.27
	いいえ	3.31	2.21	2.04	2.74	3.06	2.13	2.75	2.57	2.68	
	差	0.18	0.39	0.37	0.33	0.23	0.25	0.23	0.31	0.27	
勉強以外でむだに夜ふかしをしていませんか。(テレビやマンガ，ゲーム等)	はい	3.52	2.74	2.47	3.19	3.35	2.51	3.07	2.99	3.04	0.21
	いいえ	3.44	2.39	2.31	2.91	3.20	2.22	2.85	2.72	2.83	
朝は自分一人で起きられますか。	はい	3.49	2.61	2.41	3.09	3.28	2.41	3.00	2.90	2.97	0.08
	いいえ	3.46	2.53	2.35	2.99	3.27	2.30	2.91	2.78	2.89	
自分の部屋は，自分で整理整とんしていますか。	はい	3.50	2.63	2.42	3.13	3.31	2.41	3.01	2.91	2.98	0.17
	いいえ	3.41	2.41	2.29	2.80	3.17	2.23	2.82	2.70	2.81	
家族のために何か手伝いをしていますか。	はい	3.51	2.65	2.42	3.10	3.32	2.40	3.02	2.91	2.98	0.17
	いいえ	3.40	2.36	2.30	2.92	3.14	2.30	2.78	2.72	2.81	
家族とはよく話をしていますか。	はい	3.50	2.62	2.42	3.08	3.34	2.39	2.99	2.88	2.97	0.23
	いいえ	3.37	2.26	2.16	2.86	2.87	2.23	2.77	2.72	2.74	
勉強以外のことで，自信を持ってやれることがありますか。	はい	3.51	2.63	2.44	3.10	3.32	2.42	3.02	2.91	2.98	0.25
	いいえ	3.35	2.30	2.14	2.85	3.11	2.15	2.68	2.62	2.73	
	差	0.16	0.33	0.30	0.25	0.21	0.27	0.34	0.29	0.25	
家庭学習は，毎日だいたい決まった時間していますか。	はい	3.55	2.76	2.50	3.26	3.38	2.50	3.09	3.00	3.06	0.26
	いいえ	3.40	2.37	2.27	2.82	3.17	2.23	2.83	2.71	2.80	
	差	0.15	0.39	0.23	0.44	0.21	0.27	0.26	0.29	0.26	
学習塾に行ったり，家庭教師により勉強したりしていますか。	はい	3.52	2.62	2.45	3.08	3.31	2.46	3.03	2.92	2.99	0.12
	いいえ	3.43	2.53	2.31	3.02	3.24	2.26	2.88	2.78	2.87	
進路について目標がありますか。	はい	3.50	2.60	2.41	3.07	3.30	2.39	2.98	2.87	2.96	0.15
	いいえ	3.37	2.37	2.18	2.95	3.18	2.25	2.84	2.82	2.81	
学習について何か悩みはありますか。	はい	3.50	2.44	2.25	3.00	3.28	2.26	2.90	2.75	2.88	0.09
	いいえ	3.47	2.65	2.46	3.08	3.28	2.43	3.00	2.92	2.97	

(3)　２(1)(2)の考察

－小学生－

①　特に大きな差が見られる項目は，「手伝い」「勉強以外の自信」である。各要素の平均で０．４近い差が見られる。続いて「家族との会話」で，０．３以上の差となっており，学習意欲と生活実態とは大きく影響し合っていると思われる。家庭での生活環境や様々な体験によって学習意欲が喚起されると推測される。

②　「朝食」「整理整頓」「家庭学習」「進路の目標」に関しては同じように０．３に近い差が見られる。規則正しい生活習慣の確立は学習意欲向上のためにも大切であると言える。特に「朝食」を食べることは食育の面からも重要なことであり，本人や家庭へ働きかけをするなど，個別指導も必要である。

③　「塾・家庭教師など」の質問については相関が低く，学習意欲という視点で見る限りではあまり関係がないように思われる。

④　生活の実態についての質問の１１項目のうち半数以上の７項目で大きな差が見られる。小学生では，家庭でのよりよい生活習慣作りや家族との良好な関わりが学習意欲により強く影響していると考えられる。

つまり，家族との触れ合いが受容感を培い，学習全般に対する意欲を育てる。また，認められることは自信を養うことにもつながる。その上で，生活習慣を確立し自立的な態度を養うことが学習態度にも自ずと影響すると思われる。

小学校では，日々の学習指導や生活指導をとおして児童の自律性を高めたい。

－中学生－

①　差が最も大きいものは「朝食」の０．２７で，次いで「家庭学習」の０．２６であった。毎日の規則正しい生活習慣と学習意欲との相関性が伺える。「朝食」に関しては，小学生と同様に家庭との連携や個別指導が必要である。

②　次に差が大きいものは「勉強以外の自信」の０．２５である。中学生になって「自己有能感」が低下することを１(3)の考察で述べたが，中学校生活では自信を持って行っていることの一つに部活動がある。部活動の指導をとおして自信を持たせ，主体的な取組を促すことが学習のへよい影響をもたらすのではないか。また，部活動に限らず，生徒の良さを認めたり生徒を受容する態度に努めることが学習意欲を高めるのではないだろうか。

③　差が小さいものは，「一人で起きられるか」０．０８，「学習についての悩み」０．０９，「塾・家庭教師」の０．１２などであった。個別指導が待たれるところではあるが，学習意欲との関連は，低くなっている。

－小学生と中学生の比較－

①　平均値を見ると，小学生の時のほうが，生活の実態による差が大きい。年齢が低いほど，生活の実態が学習に影響を及ぼしやすいと思われる。

②　特に，小学生の時は「家族のために何か手伝いをしている」「家族とはよく話をしている」の回答による差が，０．３以上の開きがある。家族との関係は非常に影響が大きい。

３　今後について

学習意欲調査が始まって７年になる。調査結果を児童・生徒理解に役立てるばかりでなく，実際の指導をふり返り改善することに役立てることが望まれる。

今年度は，学校課題の研究にデータを生かすことができるように各学校の入学年別平均点の推移のデータを提供した。また，学習意欲を高める授業中の教師の支援についての研究の概略を紹介した。これを端緒に各学校では学習意欲を向上させるためにどんな取組がなされるのかに注目していきたい。

そのために，学習意欲部会としては，要素の推移の基礎となる質問毎の回答状況を整理したり学習意欲を向上させる具体的な取組について研究を始めたい。

Ⅱ　学習意欲調査について

下野市教育研究所では，平成１８年度からの継続研究として学力形成の上で重要となる「学習意欲」に関する調査を実施し，児童生徒の意欲の実態を捉えるとともに，調査データを個に応じた指導に生かせるよう研究を進めている。小・中一貫した調査研究を進めるとともに「自ら学ぶ意欲」を多面的に捉え，実施した結果を各要素ごとに比較分析が容易にできるレーダーチャートでまとめることにより，その後の指導をしやすくできるものと考えた。

１　調査の目的

(1)　下野市児童・生徒の学習意欲の実態を調査し把握する。
(2)　平成１８年度より毎年実施し，経年変化を調査しその変容を捉える。
(3)　小・中関連した調査用紙を使用し，小・中一貫した調査とする。
(4)　調査結果を指導に生かす活用法を考察していく。
(5)　調査結果から学習意欲を向上させる手立てを考察していく。

２　「自ら学ぶ意欲」の捉え方

「自ら学ぶ意欲」の捉え方については，筑波大学教授，櫻井茂男氏の説を参考にしている。すなわち，「自ら学ぶ意欲」の基になるものとして，「学習が楽しい」という気持ち，「自分はできるんだ（自己有能感）」という気持ち，「自分のことは自分で決めるんだ（自己決定感）」という気持ちが重要である。さらに，これらが生かされるためには，周囲の人からサポートされる環境が重要である。また，「自ら学ぶ意欲」の現れ（学習行動）として，「挑戦しようとする行動」「情報を収集しようとする行動」「自分の力で問題を解決しようとする行動」などもあげられる。

アセスメント（評価）については，基本的には，教師による子どもの観察，面接，提出物の点検などが中心となる一方，子ども自身による質問紙への自己評価も大いに参考となる。自己評価に当たっては，その時期を学期の終わりに行うことが有効であると考えられるので，教師はこういった子どもの自己評価を参考にして，子どもの「自ら学ぶ意欲」を理解することが大切だと考えられる。

３　「自ら学ぶ意欲」の要素について

上述した櫻井氏の「自ら学ぶ意欲の基になるもの」を参考に質問紙の内容を以下のように分類し，それぞれについて質問を作成した。

(1)　「学習の基盤」としての要素

① 学習への欲求	未知のことに魅せられ，調べてみたいという欲求。（知的好奇心） もっと有能になりたいという欲求。（有能さへの欲求）
② 他者からの受容感	自分は周りの人から受容されているという気持ち。

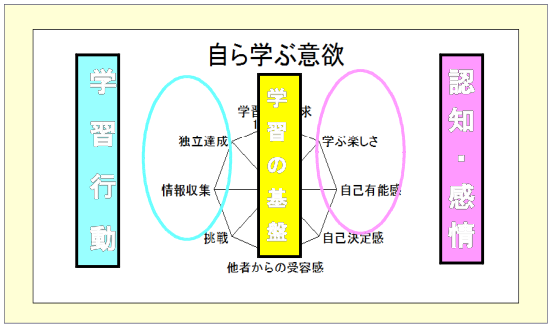
(2)　「認知・感情面」として必要な要素

③ 学ぶ楽しさ	学ぶことが楽しいという気持ち。
④ 自己有能感	自分はできるんだという気持ち。
⑤ 自己決定感	自分で決めているんだという気持ち。

(3)　「学習行動」の現れとしての要素

⑥ 挑戦	少し難しいことに挑戦する行動。
⑦ 情報収集	興味を持ったことの情報を集めようとする行動。
⑧ 独立達成	自分の力で問題を解決しようとする行動。

また，結果の処理に当たっては，これら「自ら学ぶ意欲」の各要素を容易に比較分析するために，データを右図のようにレーダーチャート化して捉えることとした。



４　「自ら学ぶ意欲」の調査方法について

(1)　調査対象学年及び実施時期

毎年　７月実施

小学校１２校　　５・６年生

中学校　４校　　１～３年生

(2)　学習意欲の数値化について

調査は，「自ら学ぶ意欲の基となるもの」の８要素について，子ども自身の自己評価によって質問紙に回答する方法で行う。

質問紙の構成は，次のように各分類が１２問の質問からなっている。また，「①学習への欲求」の質問は，「知的好奇心」「有能さへの欲求」に分けられ，各４問となっている。

分　類	要　　素	質問数
学習の基盤	①　学習への欲求	8
	②　他者からの受容感	4
認知・感情	③　学ぶ楽しさ	4
	④　自己有能感	4
	⑤　自己決定感	4
学習行動	⑥　挑戦	4
	⑦　情報収集	4
	⑧　独立達成	4

回答は４件法で，「はい」「どちらかといえば，はい」「どちらかといえば，いいえ」「いいえ」から選択する。肯定的な回答から４，３，２，１点と点数化する。ただし，各４問の質問には１問ずつ否定的な質問（反転項目：Ｒ）が含まれている。反転項目については，「いいえ」が４点となる。

次に，要素ごとに点数を合計し，平均点を出す。この平均点によって，個人や集団の学習意欲を測定する。

(3)　数値の見方

配点が１～４点なので，平均は「２．５」となる。したがって，「２．５を超えれば良好な状況」と言える。ただし，質問による難易度は自ずと異なってしまうため，各要素の数値を単純に比較することはできない。例えば，「学習への欲求が２．８」「学ぶ楽しさが２．７」の場合，「学習への欲求」の状況を「より良好」と判定することはできない。「特定の個人や集団の数値がどう変化するのか」あるいは，「集団と集団の数値の差」に着目することが必要であると考える。

また，数値を人数の割合に置き換えて捉える方法も，集団の状況を捉える上で有効であると考える。

例えば，「２．５」は，「どちらかといえば，いいえ」の回答者が５割，「どちらかといえば，はい」の回答者が５割とも考えられる。「２．７」の場合は，「どちらかといえば，はい」の回答者は７割と考えられる。つまり，小数部分は二つの回答間のより肯定的な回答者の割合を示していると捉えるのである。「３．２」であれば，「より肯定的な回答」は「はい」となり，その割合は２割である。

(4)　生活習慣と学習意欲との関連を調べる

生活の実態と学習意欲との関連を調べるために，前述の質問の他に，１１の調査項目を設けている。

生活の実態調査	３９　朝食は毎日食べていますか。 ４０　勉強以外で夜更かしをしていませんか。 ４１　朝は自分一人で起きられますか。 ４２　自分の部屋は，自分で整理整とんしていますか。 ４３　家族のために何か手伝いをしていますか。 ４４　家族とはよく話をしていますか。 ４５　勉強以外のことで，自信を持ってやれることがありますか。 ４６　家庭学習は，毎日だいたい決まった時間にしていますか。 ４７　学習塾に行ったり，家庭教師により勉強したりしていますか。 ４８　進路について目標がありますか。 ４９　学習について何かなやみはありますか。

回答は，「３９朝食」は４件法で行い，他は全て２件法である。

この調査では，「はい」と答えた子どもの学習意欲に関する質問の回答と「いいえ」と答えた子どもの回答を別々に集計し，両者を比較するようにしている。

調査結果は，集団のデータを学級活動で子どもたちに提示する資料として活用することができると考えている。

６　調査結果の活用について

この調査によって，学級担任は次のデータを得ることができる。

○　学級データ ・　クラスの学習意欲（レーダーチャートと得点表） ・　各設問ごとに回答の分布をしめすグラフ ・　各個人の各設問ごとの回答，得点一覧	○　個人データ ・　個表（レーダーチャートと得点表） ・　各個人の要素別得点一覧

(1)　個表の活用について

個表は，夏季休業中などに行う保護者との面談の資料として提示することができる。

ただし，調査が自己評価であることから，調査結果は子どもの自己評価能力，調査時の心の状態などの影響を受けている。資料は提示して説明することにとどめ，渡してしまうことのないようにしたい。

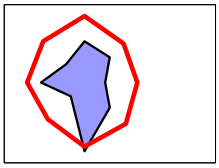
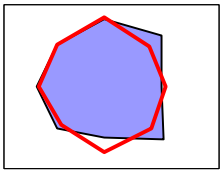
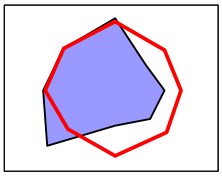
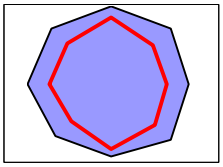
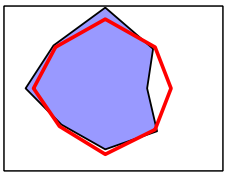
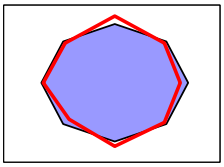
調査結果に落ち込みの見られる場合は，保護者との面談の前に子どもとの面談が必要である。何よりも子どもの気持ちを汲み取り，その気持ちに寄り添うように理解し，対応することが必要である。そして，子どもはもとより，保護者に対しても「よくない」「課題だ」などの断定的な表現は避けなければならない。

面談では，子どもの普段の学校生活，授業態度を観察・記録してきた教師側のデータを補うものとして，しかし，子どもの内面が表れたものとして生かしたい。

保護者との面談ばかりでなく，直接子どもとの教育相談で生活習慣の改善や学習への取り組み方をアドバイスすることにも使うことができる。

面談の時期が調査の時期とずれる場合は，再度調査を行うことも可能である。調査結果を比べ，子どもの変容を捉えたり教師のかかわり方を振り返ったりすることは，この調査の目的とするところである。

暫定的ではあるが，その個表のパターンについて分析してみた。抽出したクラスのデータを４年間，教育相談して出したものである。まだ，標本数が少なく正しいデータではないかもしれないが，参考にはなるかと思い掲載する。学級の児童生徒のデータと見比べていただき，分析についての意見を求めたい。

ギザギザ型	突出しているところと凹んでいるところばかりの型。 とても注意が必要であり，今，現在重要な悩みがあるか，心が不安定な状態。すぐに，教育相談をして，その原因となるものを調査する必要がある。	
突出型	一カ所もしくは二カ所突しているところがある型。 現在，表出している問題はないが，将来，問題が表出しする可能性を持つ。足りない部分を伸ばすか，突出している部分への指導が必要。	
アンバランス型	学習行動面と認知・感情面でのバランスが悪い型。主に，認知・感情面が低い場合が多い。 表面上問題は見えないが，心の中に問題を抱えている場合が多い。注意観察が必要。	
MAX型	すべての項目においてMAXに近い数値を示している型。 主に自信過剰，わがままな性格であることが多い。小学校では，発達の遅い児童もその傾向にある。現在とてもよい状況にあるが，友人関係，家族環境を含め注意観察が必要。	
へこみ型	一カ所だけが凹んでいる型。 あまり，心配はないが，凹んでいる部分を伸ばすような支援が必要。その凹んでいる部分がその児童の支援が必要な部分となる。	
バランス型	どの項目もバランスよい数字を示している型。 今のところ，心配いらない。	

〈個表を活用する際に留意すること〉
○　調査の趣旨，目的，限界を理解し，十分説明すること。
○　著しく「学ぶ楽しさ」「自己有能感」「他者からの受容感」の低い子，全般にわたって自己評価の低い子とその保護者に対しては，調査結果が断定的なものでないことをよく説明したうえで，適切なアドバイスや励ましを送ることに努めること。
○　調査結果と日常の教師の観察に大きなギャップがある子に注意すること。
○　個表などの結果を子どもや保護者に渡さない。断定的な資料として扱うことを避ける。

(2)　学級データの活用について

教師が日常の授業を見直す資料として，あるいは学級活動で子どもに提示する資料として活用することができる。

「学ぶ楽しさ」がある課題や学習活動を与え，学習活動の節目には成就感を味わわせるなどして「自己有能感」を育むこと，「できそうだ，やってみよう」「楽しそう」という気持ちにさせ，「挑戦」しようとする気持ちにさせる授業づくりをすることが，教師の課題である。

生活の実態に関する調査の結果は，学校便りや学年便りなどの記事として保護者に知らせることもできる。